

中期経営計画

Go forward to The Next Era

～次なる時代へ前進～

Final Phase

2026年5月15日

業績の振り返り

フィルム・機械とも堅調な需要と価格の適正化により増収増益
ただし、インフレ起因のコスト増加を吸収しきれず営業利益率は減少

● 2026年3月期連結業績（前期対比）

単位：億円、%	2025年3月期		2026年3月期		増減	
	金額	構成比	金額	構成比	増減額	増減率
売上高	308.5	100.0%	324.8	100.0%	+16.3	+5.3%
フィルム	268.1	86.9%	283.8	87.4%	+15.7	+5.9%
機 械	40.4	13.1%	41.0	12.6%	+0.6	+1.5%
営業利益	23.8	7.7%	24.2	7.4%	+0.4	+1.8%
経常利益	24.0	7.8%	25.0	7.7%	+1.0	+4.4%
親会社株主に 帰属する当期純利益	16.9	5.5%	15.5	4.8%	▲1.4	▲8.1%
1株当たり当期純利益 (円)	268.0		250.9		▲17.1	▲6.4%

[概況]

当連結会計年度においては、堅調な需要とともに、継続的な価格改定の効果に加え、生産性向上による加工費の低減及び販売管理費の抑制により、増収増益となりました。一方、インフレによる影響は完全には吸収しきれずに営業利益率は微減となりました。製品別には以下の通りです。

[フィルム]

国内市場では、販売数量が底堅く推移したことに加え、継続的に取り組んでいる価格改定の効果により売上高は前年同期を上回りました。海外市場においても主に米州で堅調な需要に支えられ、全体の売上高は前年を上回りました。

[機械]

国内市場では、機械及びアフターサービスが堅調に推移した一方、海外市場では、ASEAN地域では前年同期を上回ったものの、東アジア地域では前年の大口案件受注による反動減や、米州地域では企業設備投資意欲の力強さに欠け、販売台数が減少し、結果として全体で前年度比微増となりました。

中期経営計画における戦略

経営環境を「チャンス」と「リスク」の両面で捉え、「攻め」と「守り」のバランス経営を重視。経営テーマの実現を目指し、中期経営計画方針を策定

周辺環境

インフレの進展

人口の減少

地政学リスク

テクノロジーの
進化

環境問題

経営テーマ①

「インフレ経済の持続」を前提とする収益構造の強化

経営テーマ②

事業「地域」の多様化による成長

経営テーマ③

事業「分野」の多様化による成長

中期経営計画

中期経営計画方針

- I. 既存事業の収益力最大化の戦略
- II. 成長のための戦略
- III. 持続的成長を支える経営基盤強化の戦略

戦略と施策

各戦略は2年目まで順調に推移

本年度の活動を通じて、次期中長期計画に向けた基盤を固める

I. 既存事業の収益力最大化の戦略

- 販売価格の持続的最適化
- 生産性の追求によるコスト効率の改善
- 新たな製品付加価値の創出(環境対応フィルム開発等)

II. 成長のための戦略

- 海外各地域の特性に応じたローカル戦略の展開
- 最新テクノロジーを活用した新たな顧客サービスの開発

III. 経営基盤強化の戦略

- 新・事業体制の導入
- 人的戦略の高度化

- コスト改善と販売価格の適正化により、売上、利益とも計画を達成
- 環境対応フィルムとして紙包材を上市し、更なる拡大を目指す

- タイに現地法人を設立し、ASEAN地域強化
- 新たな充填機の上市、及び、クラウドサービスの拡充により、得意先の充填工程のスキルレス化の実現に貢献

- 分社化が完了し、夫々の役割の質の向上と意思決定の迅速化を実現
- 分社化により、経営人材の育成が促進
更に強固な経営基盤の構築を目指す

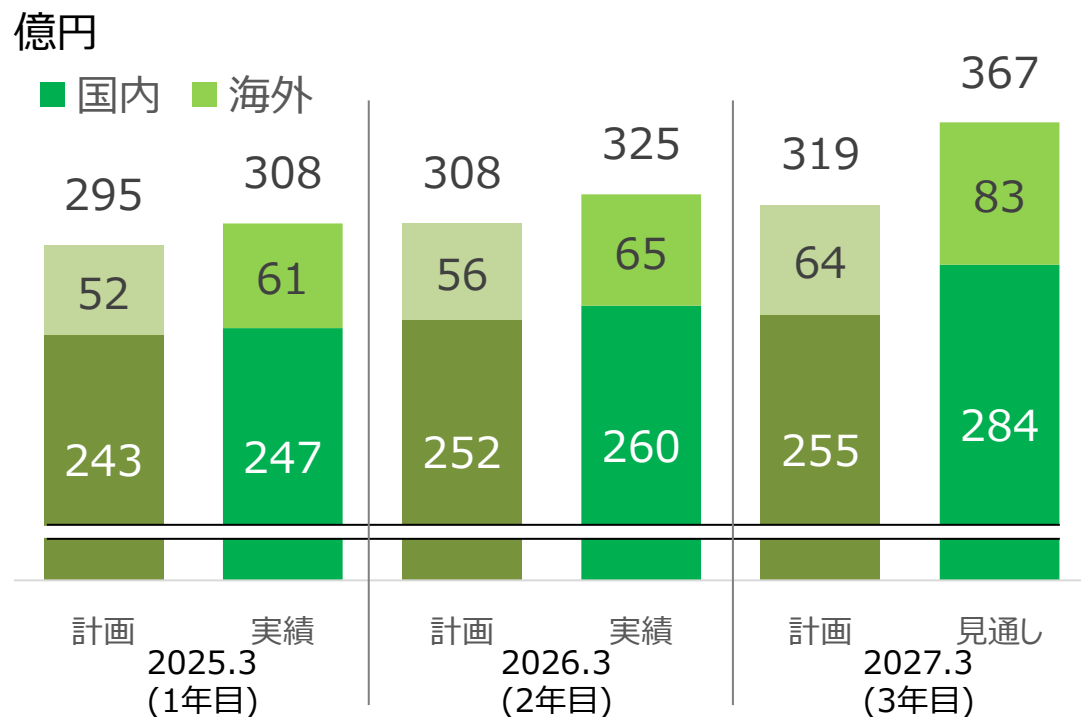
売上高及び営業利益目標

1年目、2年目とも計画を上回る成果を達成

最終年度は中東情勢が不透明な中、安定供給を最優先事項とし、その影響を織込む

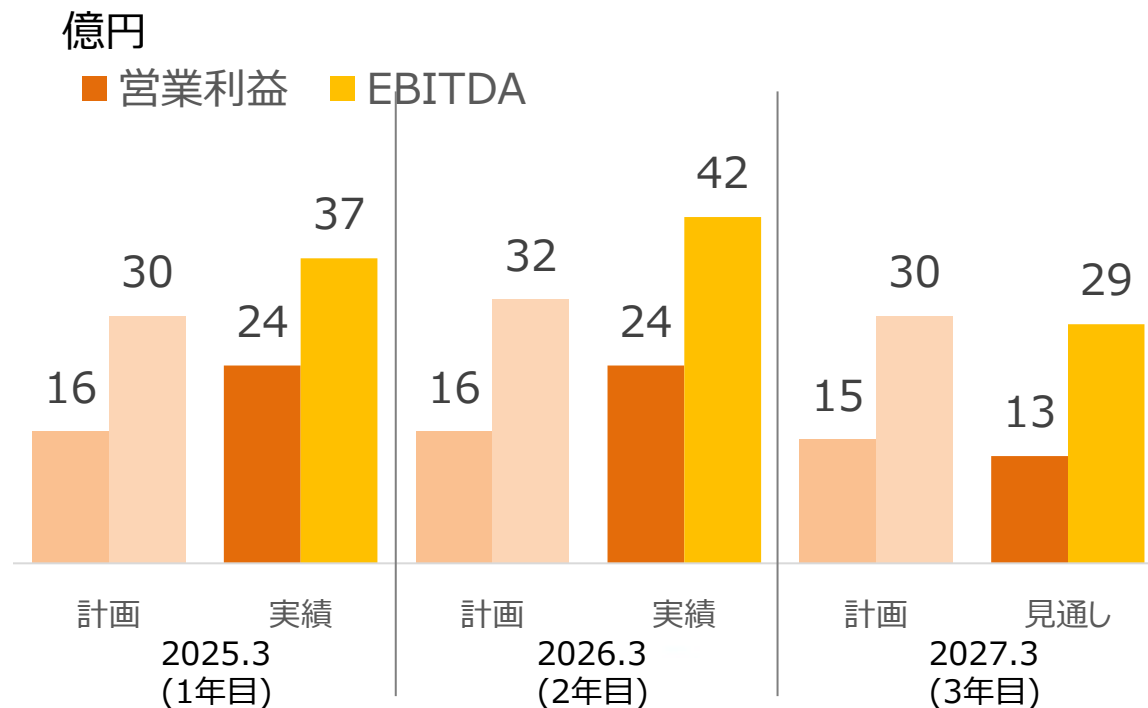
① 連結売上高

① 連結 売上計画



② 連結営業利益

② 連結 利益計画 (営業利益)



将来に向けた売上施策について

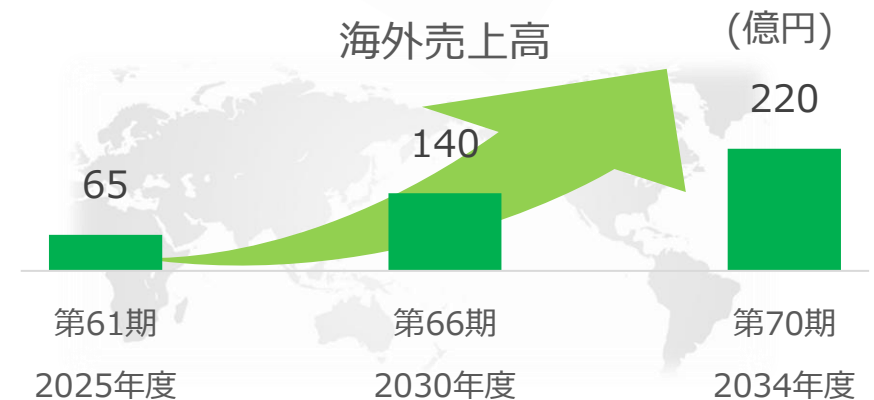
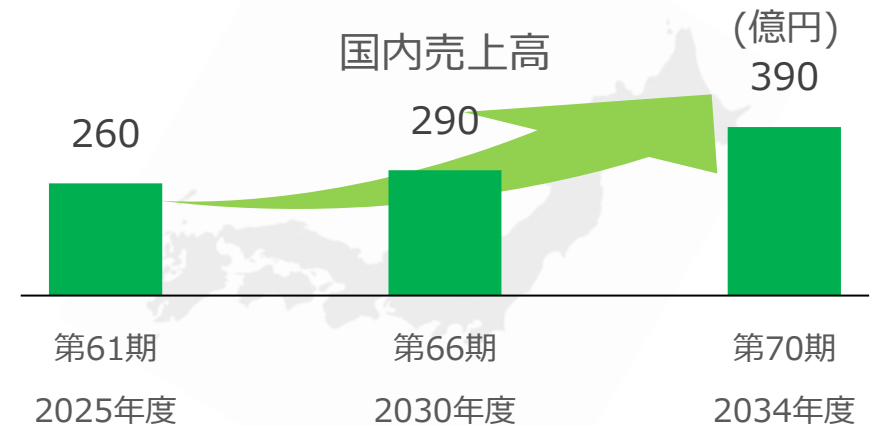
来年度から始まる新たな中長期経営計画を策定中
第70期(2034年度)に売上高の倍増を目指す

成長ストーリー

当社は国内液体小袋包装のニッチトップ企業として、安全、安心、便利な製品・サービスを、より広く提供し続けることで、世界中の人たちの豊かな生活の拡大に貢献する

成長のための施策

- 国内の液体小袋の市場の圧倒的シェア獲得を目指す
- 米国、ASEANを中心に、海外事業の積極的な拡大
- 液体包装を中心にAIを活用した製品・サービスを拡充し、国内外のお客様に幅広いソリューションを提供



【ご注意事項】

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報および合理的であると判断する一定の前提条件に基づいており、実際の業績等は、さまざまな要因により大きく異なる可能性があります。従って、その達成や将来の業績を保証するものではありません。